

近畿ブロック地球温暖化対策事例紹介セミナー 質問事項

発表自治体	質問	回答
堺市	7月から開始している「クールシティ・堺応援窓口」に関して、現在の進捗について教えてほしい。	本日この場で情報は持ち合わせておらず、明確にお答えすることが難しい。効果等については今後データ等を収集し、検証していく方向としている。
	市内金融機関との連携が活発であるが、これだけの参加機関をどのようにして集めたのか。	本市では、太陽光発電システムの普及拡大を重点施策とするにあたり、太陽光発電システムの設置補助に関して市内各金融機関と連携する目的で、打診を行っていたところ、「近畿大阪銀行」に関心を持っていただいた。当行を含めた4銀行が発起人となり、倶楽部を立ち上げた。その後、その他の市内金融機関に声かけを行い、賛同を得るに至っている。
	地球温暖化対策の推進に関して、市民向けの啓発では、どのような取組があるのか。	他の自治体と同様に、財政状況が厳しい中で市民向けの啓発に係る予算を確保することが難しい状況であるが、今年度は、経済産業省の「メガソーラー事業」において、普及啓発費を活用して、屋外型の普及啓発イベントとして、ソーラーフェスティバルを実施した。
草津市	「愛する地球のために約束する草津市条例」という名称はユニークだが、どのような経緯で決定したのか。	地球温暖化を防ぐという視点から、地球を「冷やす＝アイス(ice)」の意をとった名称としたようである。
	「愛する地球のために約束する協定」については、市民も協定の対象に含まれるようだが、実際にはそのような事例はあるのか。	条例では、市民との協定について触れているが、実際には、個人と協定を結ぶことは難しいので、基本的には、団体及び事業者が対象となる。市民については、「地球冷やしたいプロジェクト」にある12の重点アクションのテーマを選んで参加し、応募してもらうようにしている。
	協定を締結した事業者間において連携しているような事例はあるのか。	協定と前後する部分があるが、狼川流域に立地する事業者間での連携がみられるようになってきた。生物多様性の保全の視点から、水質調査や生きもの調査などに協働で取り組んでいる。市は、事業者間の情報交換の場の仲介や調査の支援等を行っている。
京都市	てんぷら油の回収拠点は、市内1580カ所となっているが、具体的には、どのような場所を回収地点に設定しているのか。	<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000072078.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000072078.html</a> をご参照ください
	貴市で実施しているBDFの取組について、技術改良・コスト改善などは進んでいるのか。	<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000000033.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000000033.html</a> をご参照ください

発表自治体	質問	回答
高槻市	<p>貴市の実行計画(事務事業編)では、廃棄物の焼却は含まれていないのか。また、平成22年度の温室効果ガス総排出量は、目標を達成しているようだが、その要因は何かあるのか。</p> <p>環境に配慮した公共建築物整備指針については、建築担当との折衝などにより、策定したのか。</p> <p>事務事業編についてエコオフィスプラン(H23~27)の目標設定ですが、省資源の水道使用量だけ目標設定が数値化されていませんが、何か理由があるのでしょうか、なるべく数値化(みえる化)する方向にするといった意見等はなかったのでしょうか。後、本年度でISO14001認証返上ということですが、今後は市独自EMS運用するとのことですが、PDCAのCのチェックの部分で環境の専門家等の評価を受けないでうまく運用して事が可能になるのでしょうか。組織の体制がしっかりしていればよいのですが、又、市民による監査はないのでしょうか。</p>	<p>廃棄物に関しては、(対策の内容が異なるため)別集計としている。温室効果ガス総排出量については、目標達成となっているが、平成22年度は、電気の排出係数が改善されたことが、削減の大きな要因となっている。</p> <p>整備指針については、策定に当たっては、EMS分科会の公共工事に関する分科会において、建築や土木部門の技術者の間で協議・検討を行い策定した。環境担当職員は、専門知識等がないため、苦勞している部分がある。</p> <p>水道水使用量の削減目標について、前プランの実績が良好な達成状況であり、取組も一定定着していると考えられることから、数値目標を掲げるのではなく、引き続き節水に努め、基準年度以下にするのを目標としています。</p> <p>独自システムについては、現在も作業を行っている所ですが、市内部の体制だけではなく、外部の有識者等にも意見等をいただきながら運用していく予定です。</p>
国土交通省	<p>本日、ご紹介いただいた「ガイドライン」は、現在全国の市町村にどの程度普及しているのか。</p>	<p>正確な数を把握することは難しいが、地球温暖化対策に関する削減効果の算定等に活用することができるので、多数の自治体においてご活用いただけていると考えている。</p>